第２回　小金井市産業振興プラン策定委員会

日時：令和３年８月２５日（水）
午後６時から
場所：小金井市商工会館２階大会議室

次　第

１　開会

２　議題
現プランの総括を踏まえた新プランの方針及び施策体系について
⑴　関連する統計データ及び既存アンケートの結果について
⑵　現行プランにおける取組状況及び新プランにおける取組について

３　閉会

【配布資料】
・会議次第
・小金井市産業振興プラン改定の考え方（資料１）
・コロナ禍における昼間人口の変化について（資料２）
・コロナ禍における住民アンケートについて（資料３）
・市民の交通行動の実態について（資料４）
・市内第二次産業に関する現況について（資料５）

資料１

小金井市産業振興プラン改定の考え方

１．検討にあたっての前提（第１回委員会資料６より抜粋）

第５次長期総合計画（R3 年度中に策定予定）

産業・観光の振興で目指す姿

多様で豊かな市民力あふれる生活都市にふさわしい産業・観光の創出・育成に継続的に取り組み、地域の付加価値を高める、**ふれあい**と**活力**のあるまち

課題

- ●中間支援機能の充実と連携の拡大
- ●インキュベーション施設入居企業の市内長期定着の促進
- ●産業の担い手に対する各種支援事業の活用促進
- ●就労支援策の充実
- ●市内観光資源の創出・魅力発信
- ●新型コロナウイルス感染症の影響による市民の意識変化を踏まえた対応

施策

❶商工業の活性化
- ・基盤整備、自発的活動支援によるにぎわいの創出

❷創業者を中心とした市内事業者の育成・支援
- ・創業機運醸成による市内定着、創業の活性化
- ・融資等支援の充実による経営安定化・成長

❸就労支援の充実
- ・関係機関との連携、情報提供による雇用の拡大

❹観光の推進
- ・地域の魅力発信、回遊性向上による交流人口の増加

指標

- ・**まちに活気があると感じる市民**の割合
- ・**年間小売販売額**
- ・**滞在人口率**

次期産業振興プランを検討する上での観点

■まちの活気がゴールになる

第５次長期総合計画で「まちに活気があると感じる市民」を指標とし、「ふれあい」「活力」をゴールとしていることから、「まちの活気」がゴールになると考える。

ベッドタウンにおける産業振興は、まちづくり、地域振興へと接続していくイメージを持つ。

これまでの取組の成果・課題

成果
- ○地域資源の活用の広がり
- ○創業によるエリアブランディング
- ○まちづくりへの展開
- ○市内プレイヤーのつながりの深化
- ○中間支援組織の確立・定着
- ○情報発信の充実

課題
- ×工業に対する支援のあり方
- ×農地の保全・経営支援のあり方
- ×事業実施にあたっての助成金依存
- ×市内事業者、市民の主体的参画

■そのための産業・観光振興

産業・観光振興は、年間小売販売額が指標になっているように、市内事業者の支援を目的としている。

ただし、上記のゴールを考えると、市民にとっては「ふれあい」「活力」につながるものであると考える必要がある。

社会経済的な状況の変化

■コロナ禍を好機とする

コロナ禍のなか地域で暮らす人が増え、近所に魅力を感じる人も見られるなか、地元消費を後押しとした「まちづくり」を検討できるのではないか。近隣での交流人口確保の可能性も高まっている。

■副業の広がり

副業が社会的に認知されるなか、これまでの創業支援を展開し、市内におけるチャレンジを活性化できる状況にあるのではないか。

■商、工、農、観光の連携

地元観光という考え方が提起されるなか、観光を軸にするなど、商工農の連携が考えられる。

2．新プランの策定のプロセス

基本的なプロセス＝事業者、市民が目標実現を踏まえて「やりたいこと」＝事業からボトムアップで考える。

○行政計画は多くの場合、次のプロセスで策定されます。第一に現状と課題を踏まえ、解決するべき問題を明らかにします。解決するべき問題は、将来像とのギャップから考えます。そのギャップを埋めるための方法を考え、その方法に従った事業＝**「やるべきこと」**を計画します。

○今回は将来像を踏まえ、それを実現するための事業を直接考えます。さらに、現行プランの**「産業振興は、商業者や事業者の前向きな気持ちから生まれる」**という考え方を踏まえ、**事業者の「やりたいこと」**を中心に議論いただき、それらを積極的に計画に盛り込みます。

■策定のプロセスのイメージ

新しいプランで実現すること

将来像（第５次長期総合計画）
多様で豊かな市民力あふれる生活都市にふさわしい産業・観光の創出・育成に継続的に取り組み、地域の付加価値を高める、ふれあいと活力のあるまち

目標

まちに活気があると感じる市民を増やす
（指標＝まちに活気があると感じる市民の割合）

小売業の売上を伸ばす
（指標＝年間小売販売額）

市内・市外から訪れる人を増やす
（指標＝滞在人口）

実現に向けて考慮いただきたいこと（例）

生活都市にふさわしい産業・観光は？

小金井が高めるべき地域の付加価値は？

市民が、活気があると感じることは？

上記将来像の実現に寄与する「やりたいこと」を計画に位置づける
（行政として「やるべきこと」、継続して実施していくべき事業も位置づける）

市内事業者が「稼ぐ」ためにやりたいこと
市民が地元で豊かに「暮らす」ためにしてほしいこと

資料２

コロナ禍における昼間人口の変化に関する試算

１．問題提起

○第１回委員会にて「コロナ禍で市内に滞留している市民の数を把握してもらいたい」という質問をいただきました。

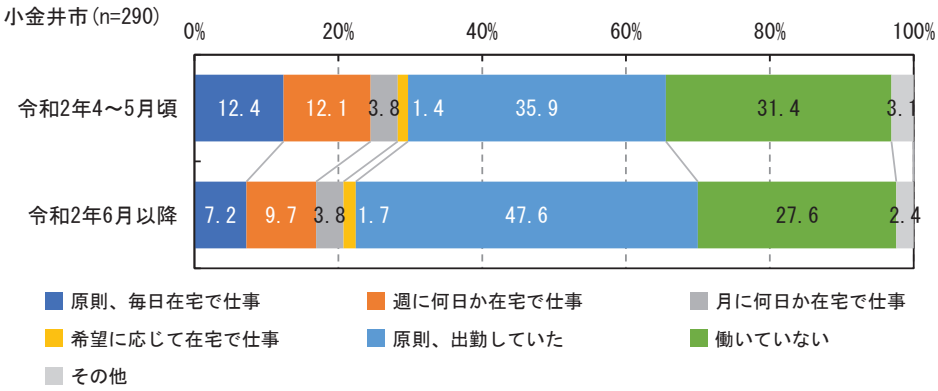
○質問に応じて武蔵小金井駅に向かう路線バス利用者数から試算しようとしたものの、バスの路線別利用統計が公開されておらず、アンケート調査結果から推計を行いました。

２．試算結果

○アンケート調査結果を用いて推察すると、リモートワークする就業者ないしは在宅で講義に参加する学生は**約 16,000 人**と推計されます。内訳は、**就業者は約 13,000 人**、**学生は約 3,000 人**となっています。

３．算出方法①

○令和元年度に小金井市観光まちおこし協会にて、小金井市及び近隣自治体の住民を対象にして実施したアンケート調査では、緊急事態宣言下の令和２年４～５月と同年６月以降のテレワークの頻度を尋ね、小金井市在住者に関しては以下の結果を得ました。



○令和２年６月以降も、定期的にリモートワークをしている人の割合（「原則、毎日在宅で仕事」「週に何日か在宅で仕事」の合計）は 16.9％です。働いている人にかぎると 24.1％となります。

○平成 27 年国勢調査によると、市在住者で就業している人口は 55,350 人です。上記のアンケートを全体に適用すると、定期的にリモートワークをしている人は約 13,340 人（55,350×0.241）と推計されます。

※「原則、毎日在宅で仕事」と回答した人には自宅で従業する人も含まれるため、就業人口全体を母数としています。

○平成 27 年国勢調査では、小金井市在住者のうち市外に通学する人（15 歳以上）は 6,274 人です。大学は状況に応じてリモート講義を徹底することから、その半数の 3,000 人が大学生と見なし、リモートをしていると考えます。

○結果、在宅で就業ないしは講義に参加する人は最大で**約 16,000 人**と推計されます。

4．算出方法②

○JR と西武鉄道が公開する市内各駅の 1 日平均乗客数の変化は以下の通りであり、3 つの駅で約 25,000 人減少しています。

○武蔵小金井駅・東小金井駅については、定期利用者が約 17,000 人減少しています。この減少分には市外在住者も含まれてはいますが、算出方法①の結果は一定程度の有意だろうと推察されます。

駅名	区分	2019 年	2020 年	変化
武蔵小金井駅	定期外	19,033	13,539	△5,494
	定期利用	43,532	33,832	△9,700
	合計（①）	62,565	47,371	△15,194
東小金井駅	定期外	9,416	6,713	△2,703
	定期利用	22,341	15,054	△7,287
	合計（②）	31,758	21,768	△9,990
新小金井駅	合計（③）	2,020	1,547	△473
総計（①+②+③）		96,343	70,686	△25,657

※新小金井駅の統計は乗降客数が公開されているため、半数として計上しています。

5．補足

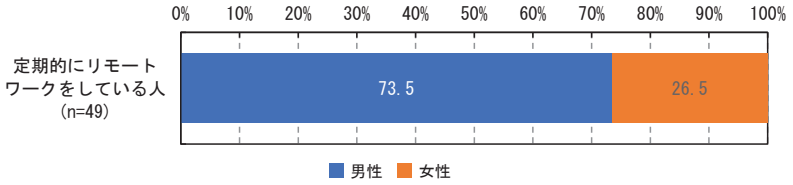
○定期的にリモートワークをしている人の性別をみると、男性が 73.5%、女性が 26.5%となっており、男性の方が女性よりも多いです。

○年代別にみると 50 代が 32.7%で最も多く、30 代が 20.4%で続きます。性別・年代別でみると、50 代男性が最も多く、40 代男性が続いています。

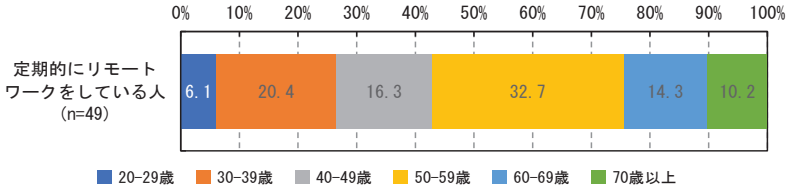
※回答者の男女比は概ね半数ずつですが、働いている人にかぎると男女比は 3：2 程度です。回答者が男性に偏ってはいるものの、上記の結果から男性の方がリモートワークをしていると言えます。

※20 代の回答者数は他の年代に比べてやや少なく、特に 20 代男性は少ないため、下記を持って 20 代男性がリモートワークをしていないと結論することは避けるべきです。

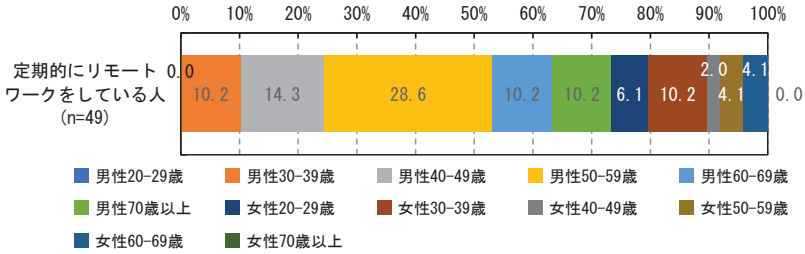
【性別】



【年代別】



【性別・年代別】



資料３

コロナ禍における住民アンケートに関する報告

１．問題提起

○第１回委員会にて「市民アンケートを用いて、市内に目を向けるようになった人たちの属性を把握してもらいたい」という質問をいただきました。

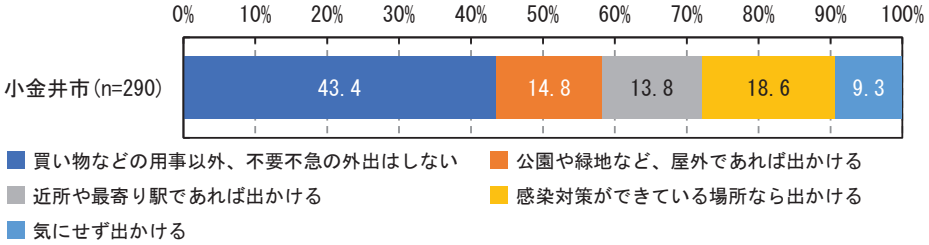
○令和２年度に小金井市観光まちおこし協会にて実施したアンケート調査の結果詳細をまとめます。なお、同調査は次の内容で行っており、以下にまとめる結果詳細は小金井市在住者のみを抽出したものとなります（第１回委員会での資料は全回答者を対象として集計した結果でした）。

■対象	小金井市、武蔵野市、三鷹市、国分寺市、国立市に在住する 16～74 歳の男女
■実施時期	令和２年 12 月
■回収サンプル	597 サンプル（うち小金井市在住者 290 サンプル）
■方法	インターネットモニター調査

２．近所での過ごし方

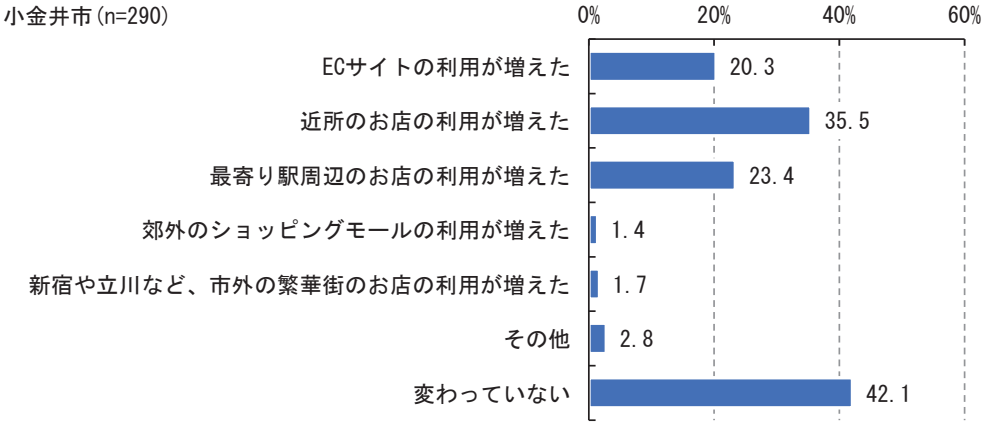
■近所や最寄り駅であれば外出する人は一定程度います

○コロナ禍で不要不急の外出（近所も含めて）をしない人が４割を占めるなか、近所であれば外出するという人は 13.8%です。屋外なら出かける（14.8%）を含めると約３割となっています。



■近所で買い物をするようになった人が増えています

○EC サイトの利用が増えたという人が 20.3%であるのに対して、近所のお店の利用が増えたという人は 35.5%です。

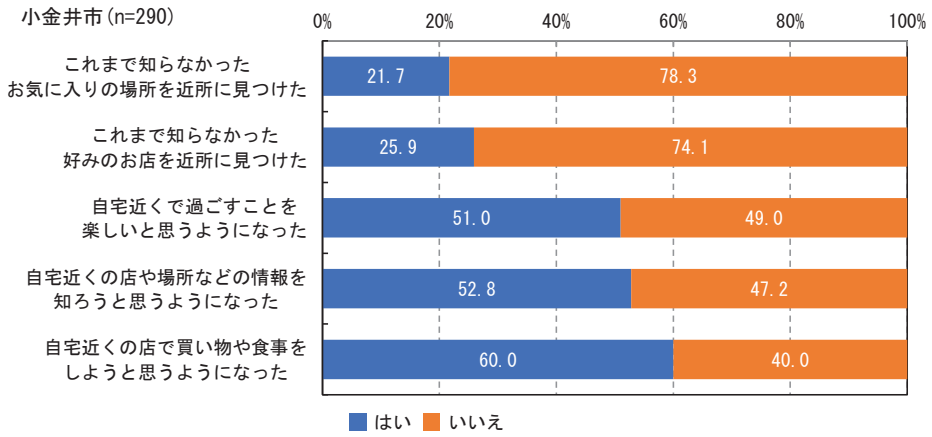


３．近所に対する意識の変化

■自宅近くで過ごすことを楽しいと思うようになった人が多いです

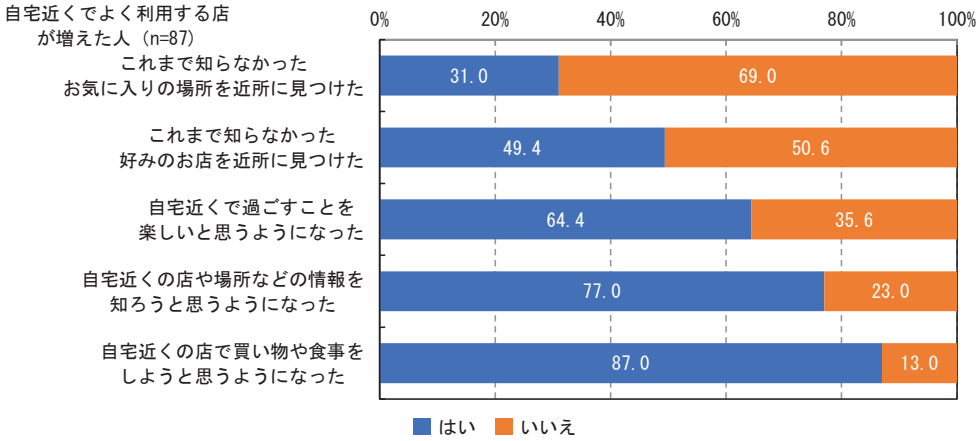
○自宅近くで過ごすことが楽しくなったという人が 51.0%となっています。

○これまで知らなかったお気に入りの場所やお店を近所に見つけたという人は２割台ですが、自宅近くの店や場所などの情報を知ろうと思うようになった人は 52.8%となっています。

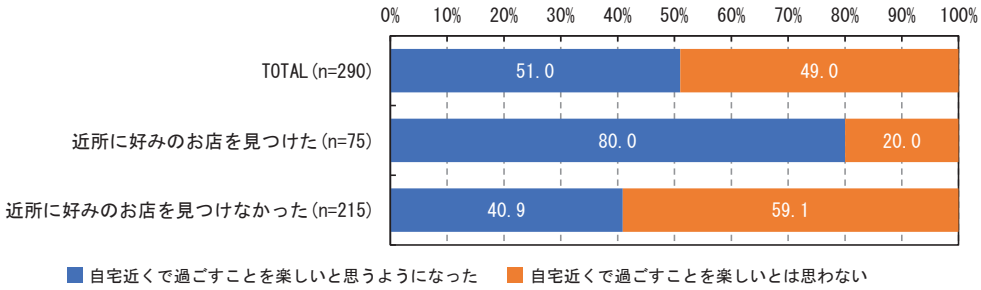


○自宅周辺でよく利用するお店が増えた（テイクアウト等を含む）という人に限ると、自宅周辺で過ごすことが楽しくなったという人は 64.4%となります。

○また、これまで知らなかったお気に入りのお店を近所に見つけた人は 49.4%となり、自宅近くの店や場所などの情報を知ろうと思うようになった人も 77.0%となります。

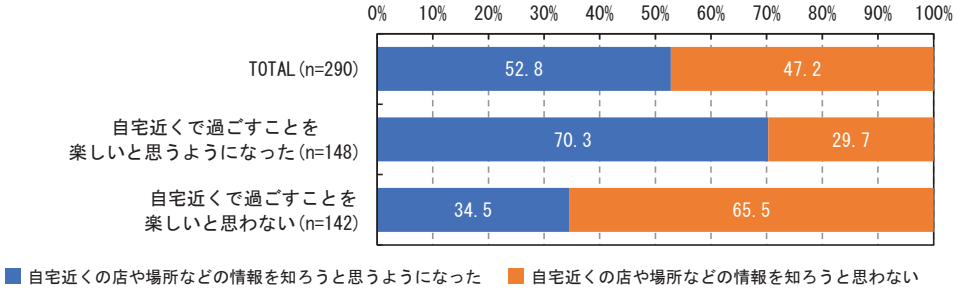


○好みのお店を見つけたという人の 80.0%が、自宅近くで過ごすことが楽しいと思うようになっています。なお、好みのお店を見つけていない人も 40.9%が楽しいと思うようになっている点には留意が必要です。



○さらに、自宅近くで過ごすことを楽しいと思うようになった人の 70.3%が、自宅近くの店や場所などの情報を知ろうと思うようになっています。

○このことから自宅周辺のお店を利用する人ほど、お気に入りの場所を見つけ、自宅近くで過ごすことを前向きに捉え、情報を知ろうと思うようになったと推察されます。



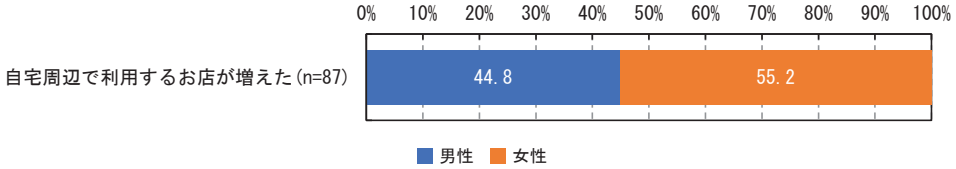
4．自宅周辺で利用するお店が増えた人の属性

○自宅周辺で利用するお店が増えた人の性別をみると、女性の方が若干多くなっています。

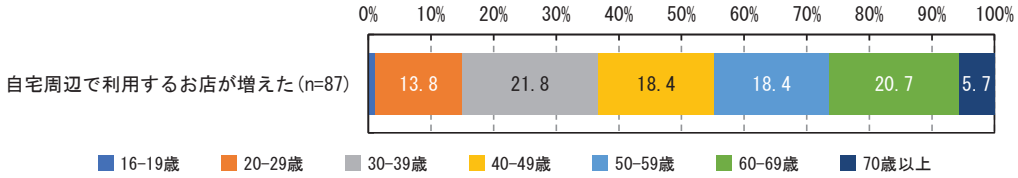
※小金井在住の回答者の男女比は 52：47 であるため、男女比を考慮しても女性の方が多いと言えます。

○年代別にみると大きく差がありませんが、性別・年代別にみると、20～30 代の女性に多く、男性では 50 代が多いです。

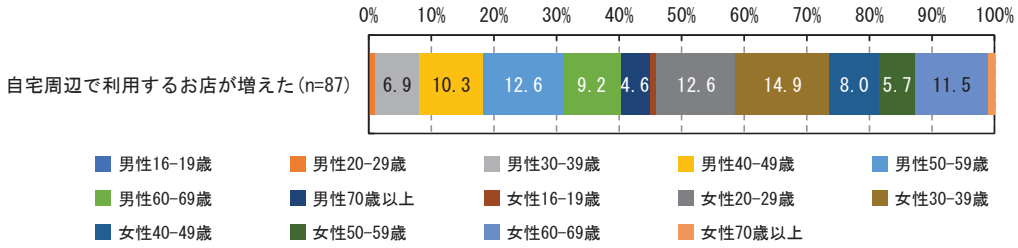
【性別】



【年代別】



【性年代別】

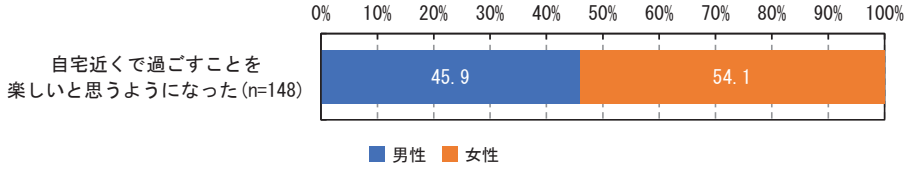


6．自宅近くで過ごすことが楽しいと思うようになった人の属性

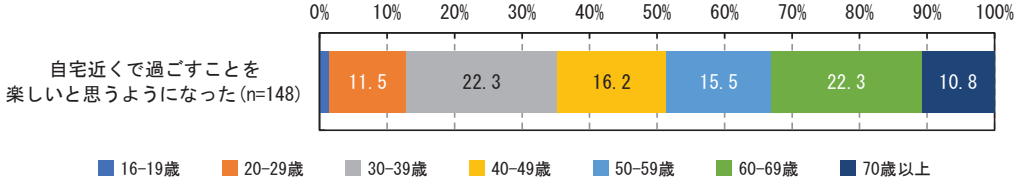
○自宅近くで過ごすことが楽しいと思うようになった人の性別をみると、女性の方が若干多くなっています。

○年代別にみると 30 代・60 代が多くなっています。性別・年代別にみると、30 代女性が特に多くなっています。

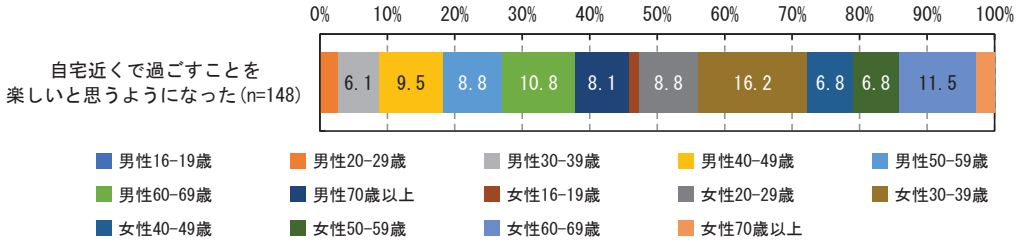
【性別】



【年代別】



【性年代別】

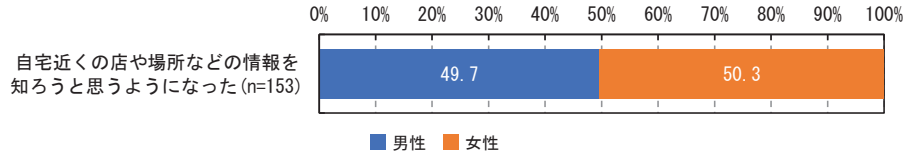


7．近所のお店や場所などの情報を知ろうと思うようになった人の属性

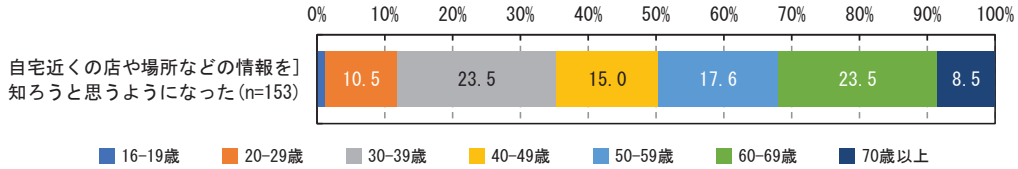
○近所のお店や場所などの情報を知ろうと思うようになった人の性別をみると、ほぼ同数ですが、回答者の男女比を考慮するとやや女性の方が多いと言えます。

○年代別にみると 30 代・60 代が多くなっています。性別・年代別にみると、30 代女性が最も多く、男性の 50 代・60 代も多くなっています。

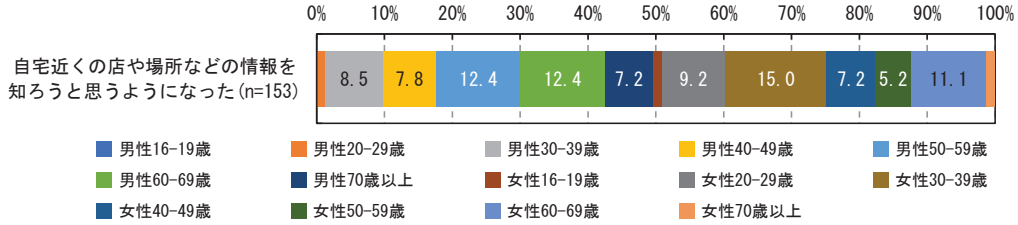
【性別】



【年代別】

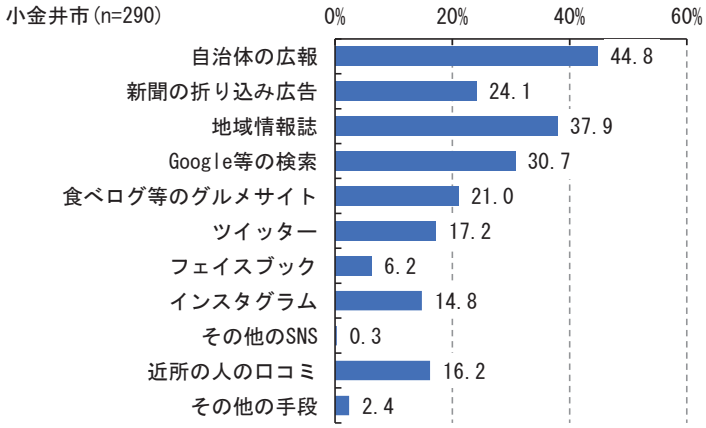


【性年代別】

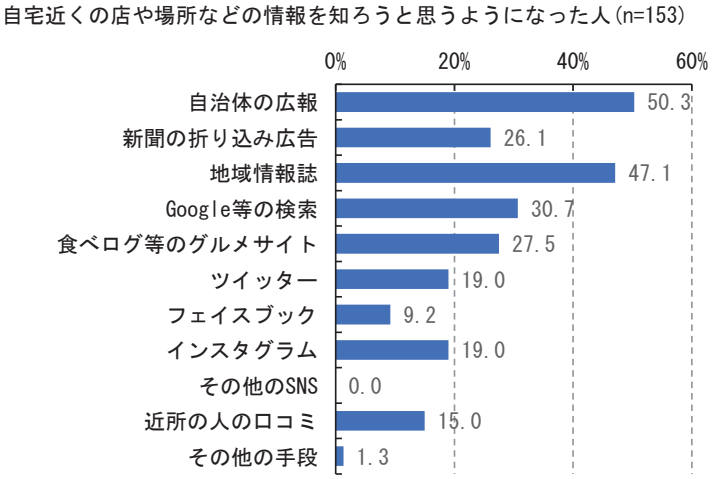


8．近所のお店やイベント等の情報を得るための手段

○自宅近くのお店やイベント等の情報を得るための手段としては、自治体の広報が44.8%で最も多く、地域情報誌（37.9%）、Google 等の検索（30.7%）が続きます。

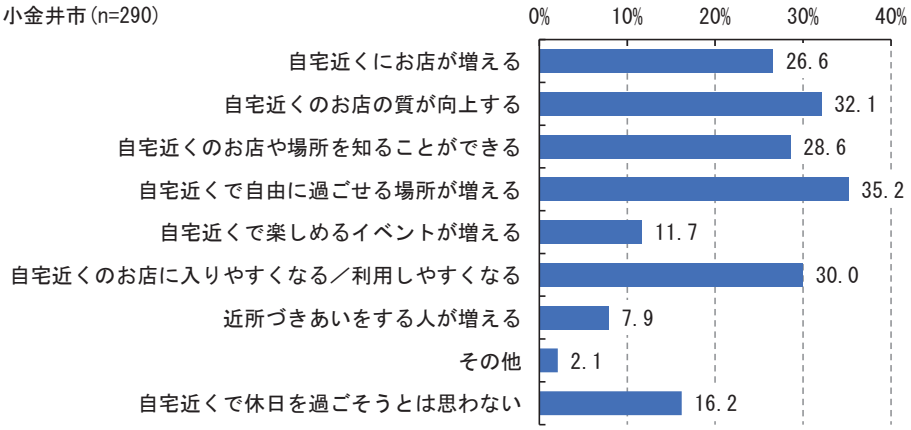


○自宅近くのお店やイベント等の情報を知ろうと思うようになった人に限っても、自治体の広報誌は 50.3%で最も多く、地域情報誌（47.1%）、Google 等の検索（30.7%）が続き、傾向は大きく変わりません。



9．自宅近くで休日を過ごすために必要なこと

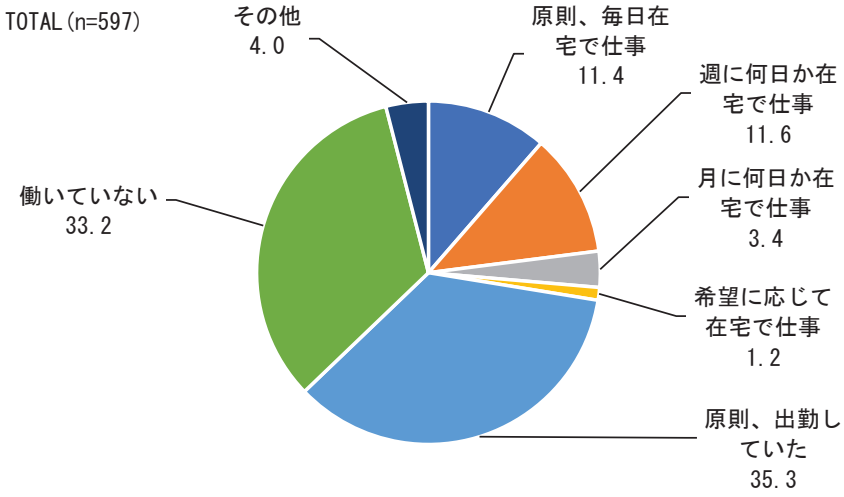
○自宅近くで休日を過ごすために必要なこととしては、自宅近くで自由に過ごせる場所が増えることが 35.2%で最も多く、店に関することよりもやや多くなっています。これは自宅周辺によく利用する店が増えた等の行動や関心の変化にかかわらず、共通して多いです。



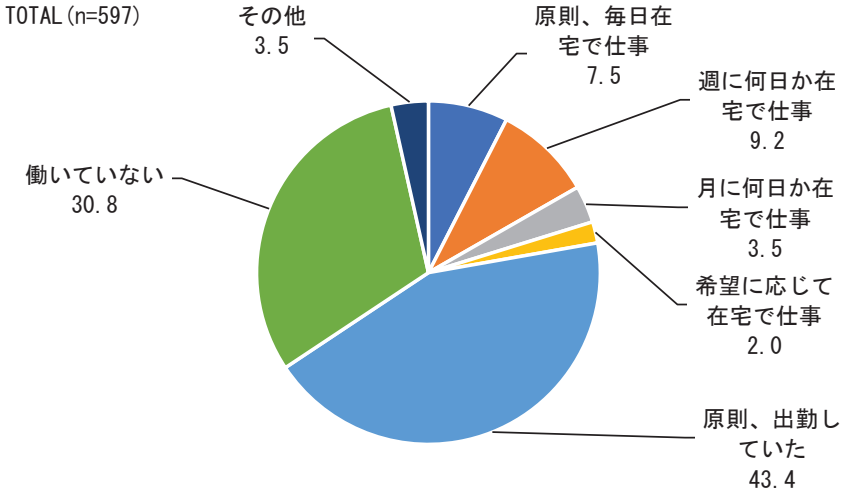
10. 集計一覧

Q 新型コロナウイルス感染症が流行するなか、テレワークはどれぐらいの頻度で実施していますか。

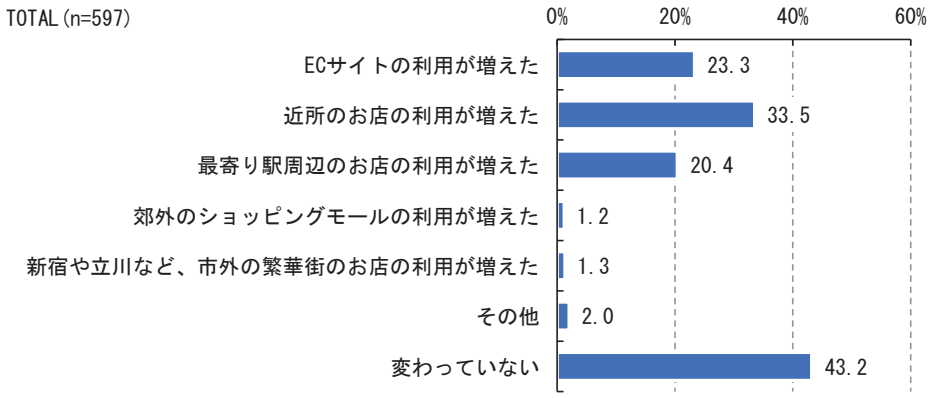
【4～5 月頃】



【6 月以降】

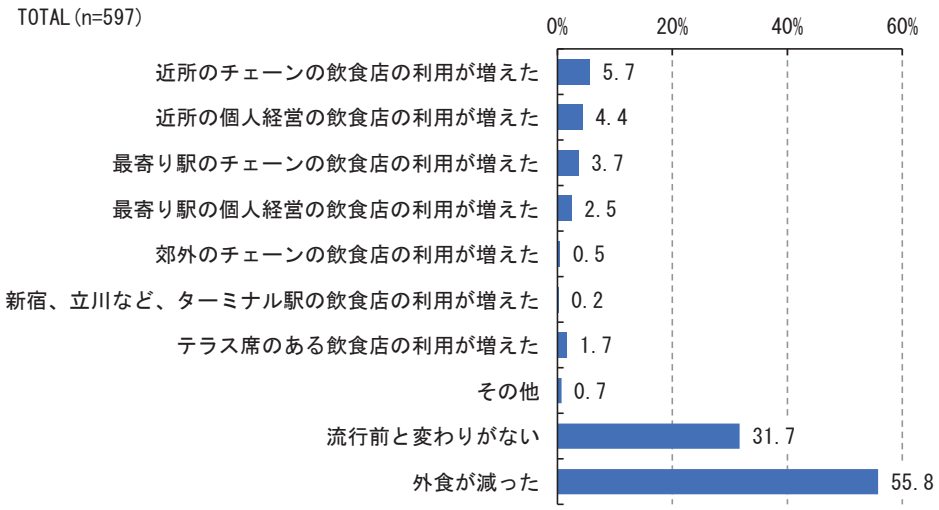


Q 新型コロナウイルス感染症が流行する以前（2019 年時点）と比べて、買い物について何か変化はありましたか。

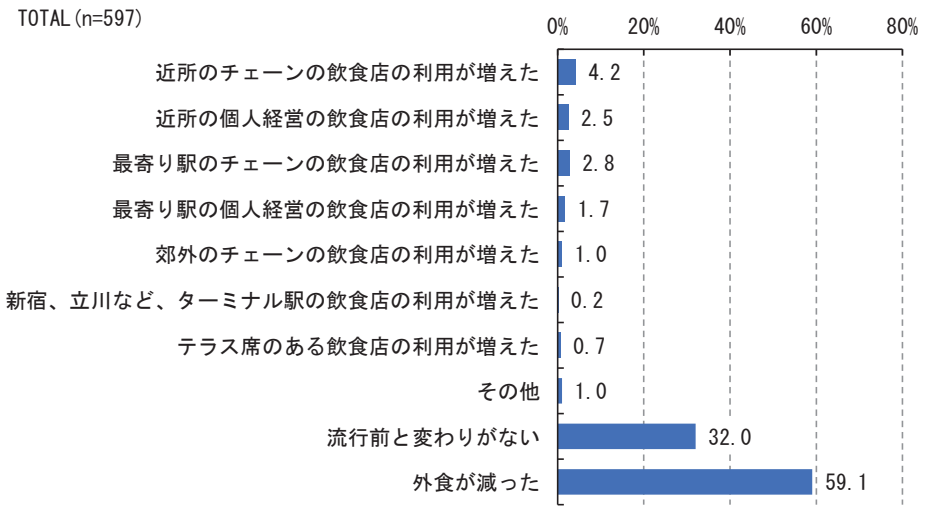


Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降)、外食（テイクアウトや宅配は除く）について何か変化はありましたか。

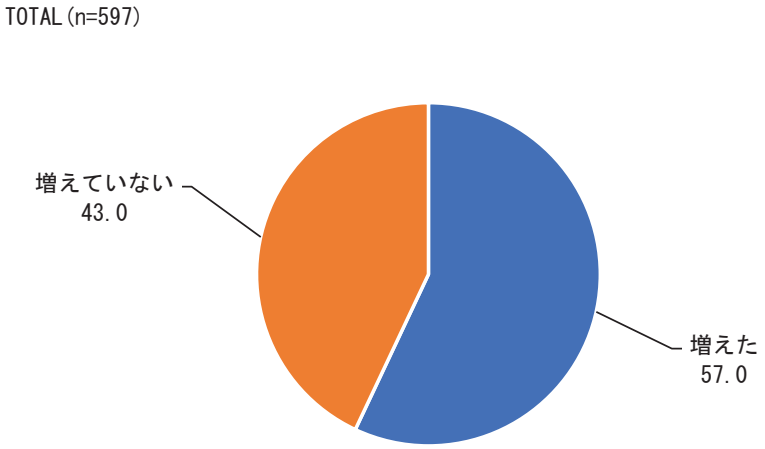
【ランチ】



【夕食】

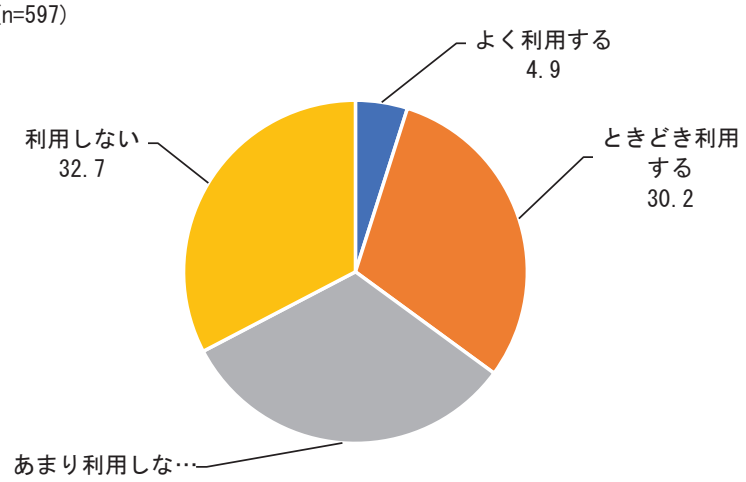


Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降)、キャッシュレス決済の利用は増えましたか。



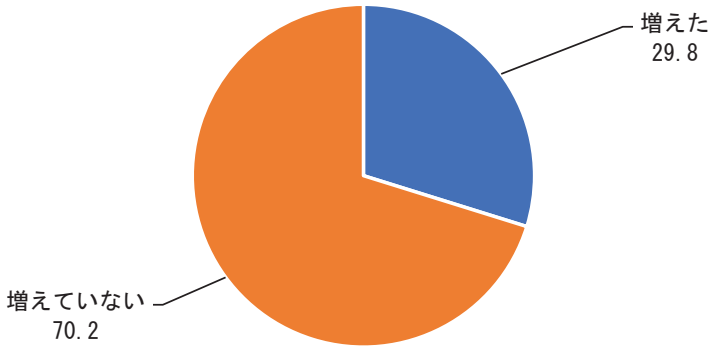
Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降）、自宅周辺の飲食店のテイクアウトや宅配を利用していますか。

TOTAL(n=597)



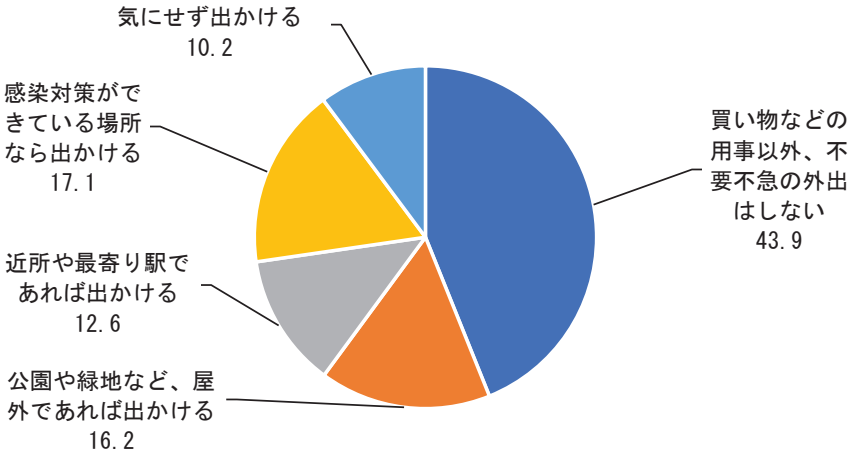
Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降）、自宅周辺によく利用するお店は増えましたか。 ※実際に来店しての利用以外にも、テイクアウトや宅配、出張サービスでの利用も含みます。

TOTAL(n=597)

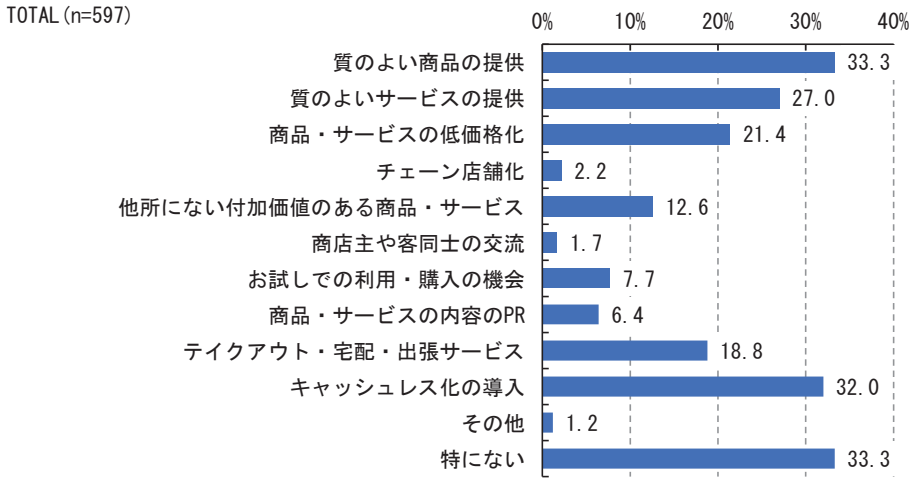


Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降）、ふだんの休日に外出していますか。あなたの行動に最も当てはまるものをお選びください。

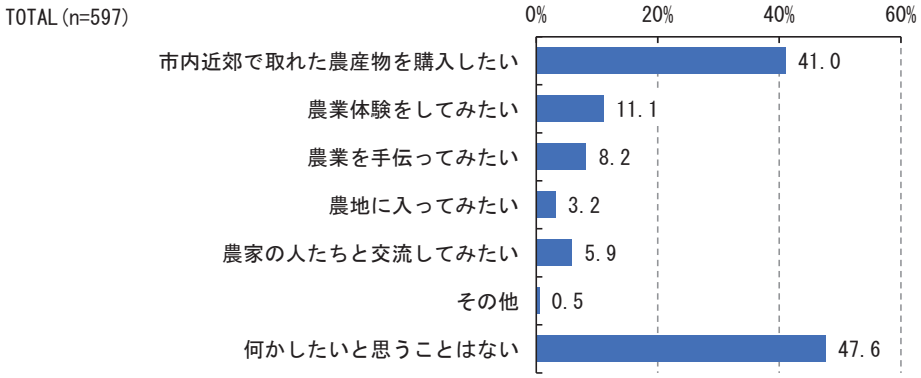
TOTAL(n=597)



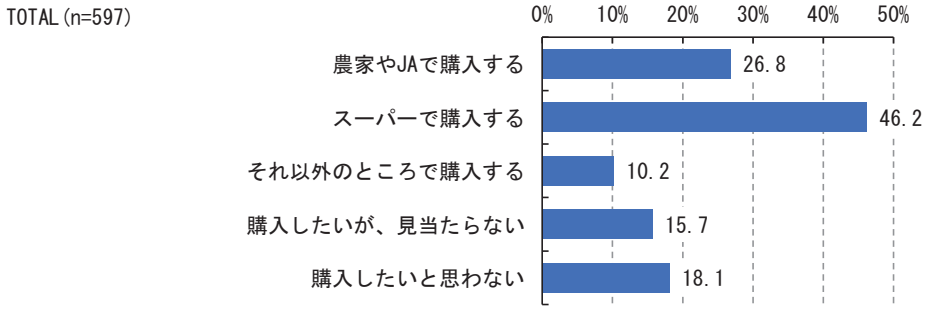
Q 近所の商店・飲食店を利用するにあたって要望はありますか。



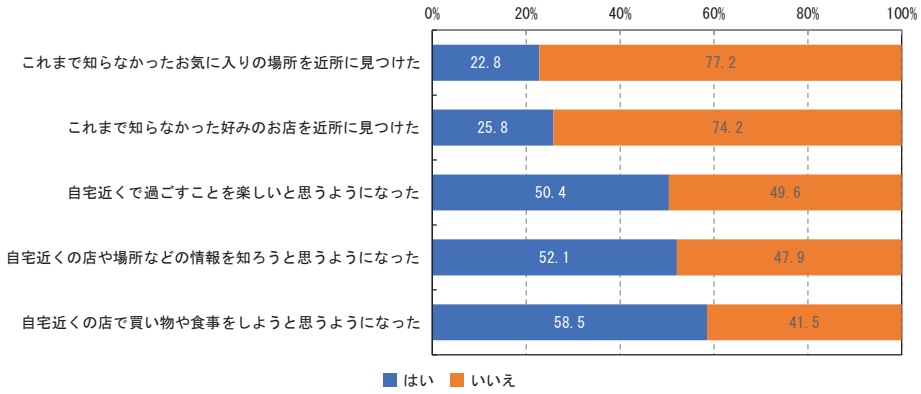
Q 住んでいる地域や近郊での農業に対してどう思いますか。



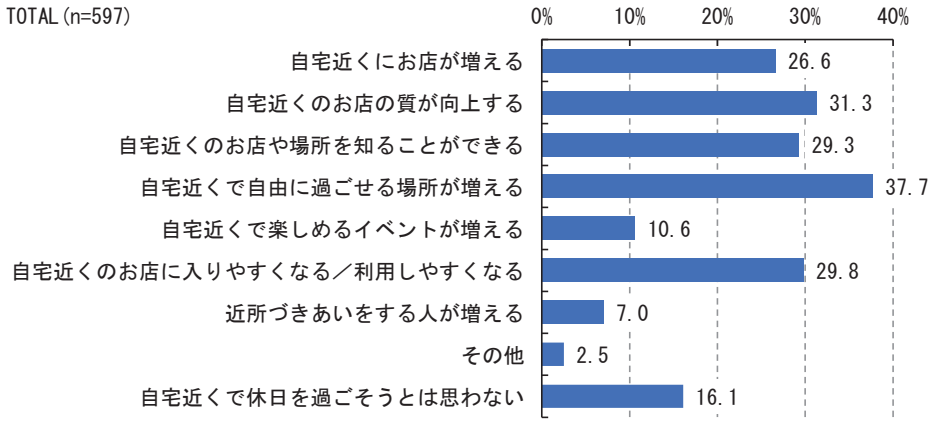
Q 住んでいる地域や近郊で栽培された農産物を購入することはありますか。購入している場合には購入場所をお答えください。



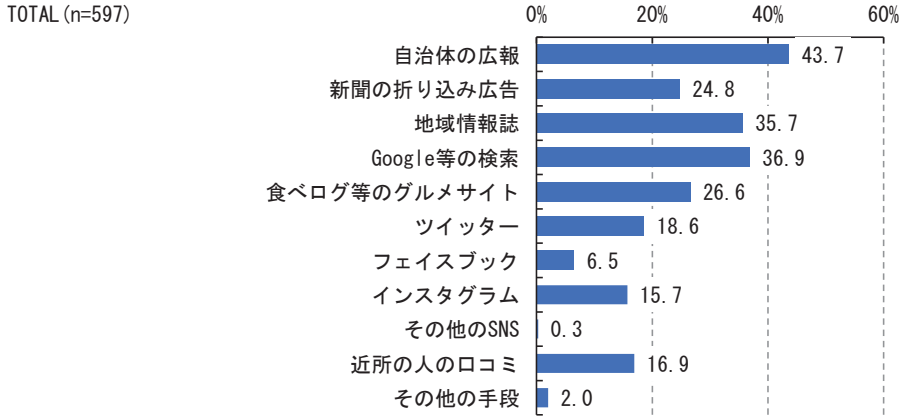
Q 新型コロナウイルス感染症が流行して以降（おおむね 2020 年 4 月以降)、いまのお住まいの地域についてどのように思っていますか。



Q 新型コロナウイルス感染症の流行するなか、自宅近くで休日を過ごす上で必要なことは何ですか。



Q 近所のお店やイベント等の情報を得るために有効だと思う手段は何ですか。



資料４

市民の交通行動の実態について

１．問題提起

○第１回委員会にて「市民アンケートを用いて、市内に目を向けるようになった人たちの属性を把握してもらいたい」という意見をいただきました。

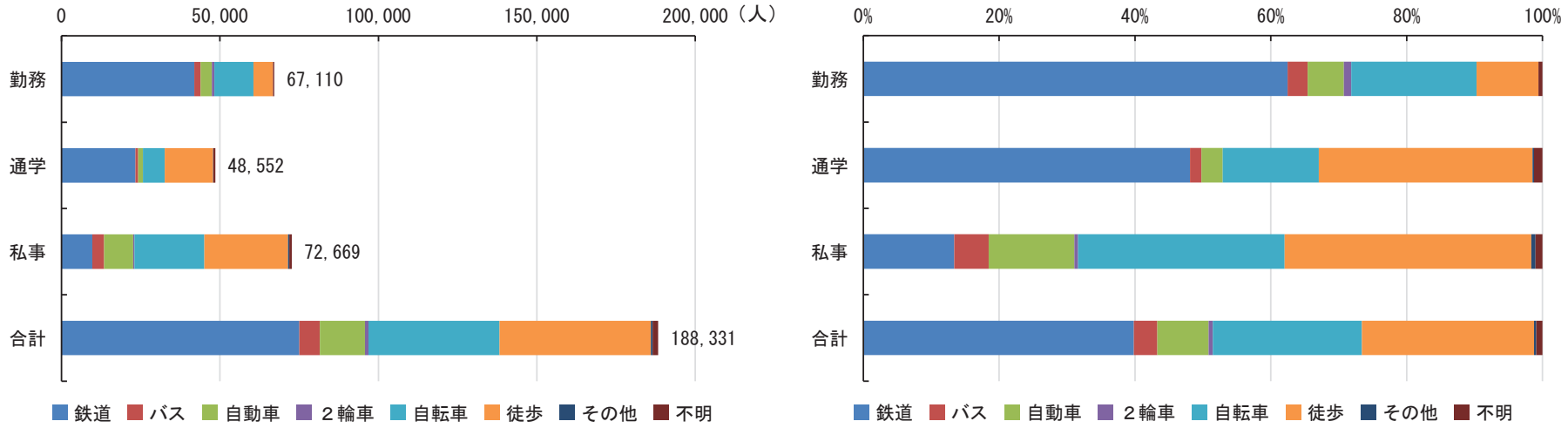
○下記のとおり、目的別代表交通手段（移動時の目的に応じて何の交通手段を用いるか）、市内各駅にアクセスする際と駅から離れる際の交通手段（駅端末交通手段）をまとめました。

２．市民の交通行動の実態

○目的別代表交通手段からは、仕事の場合は鉄道が多く、私事の場合は自転車と徒歩が多いことが分かります。

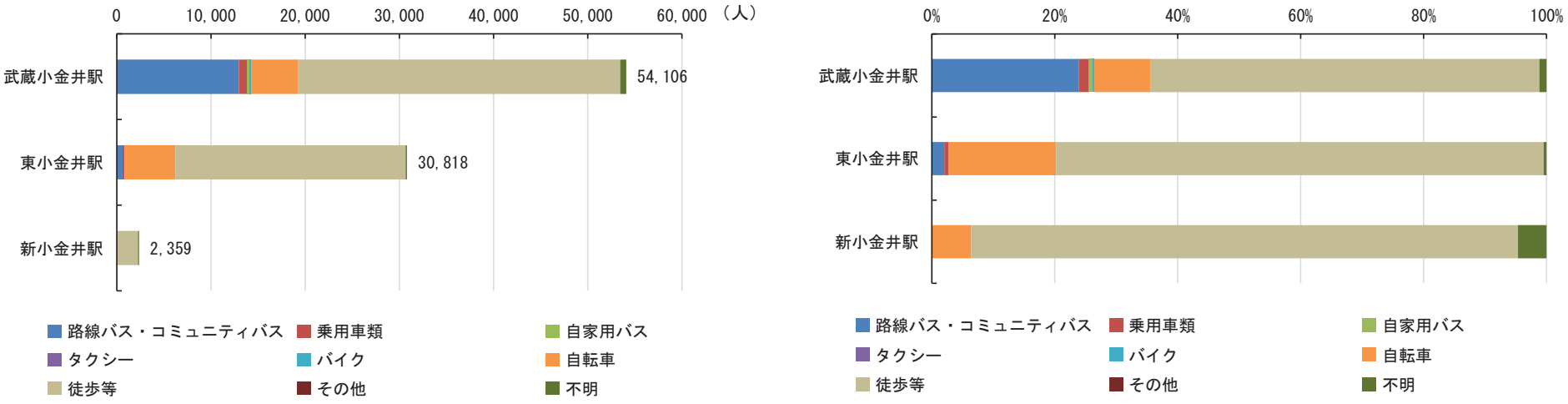
○駅端末交通手段からは、駅に向かう手段はいずれの駅も徒歩が多いことが分かります。武蔵小金井駅に関しては路線バス・コミュニティバスが特に多いです。

【目的別代表交通手段（右：トリップ数、左：割合）】

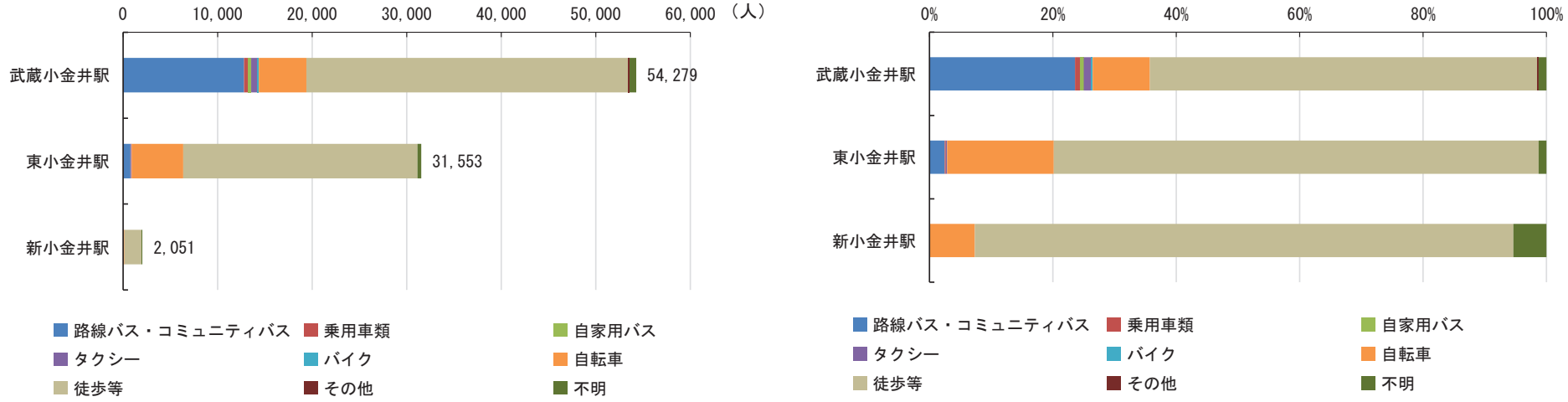


出典：第６回東京都市圏パーソントリップ調査（平成 30 年）

【駅別端末交通手段【乗車】(右：トリップ数、左：割合)】



【駅別端末交通手段【降車】(右：トリップ数、左：割合)】



出典：第 6 回東京都市圏パーソントリップ調査（平成 30 年）

資料５

市内第二次産業に関する現況詳細

１．問題提起

○第１回委員会にて「工業については市外から稼ぐ事業者なのかも確認した方がよい。また、雇用主であるので、従業員数も把握した方がよい」という意見をいただきました。

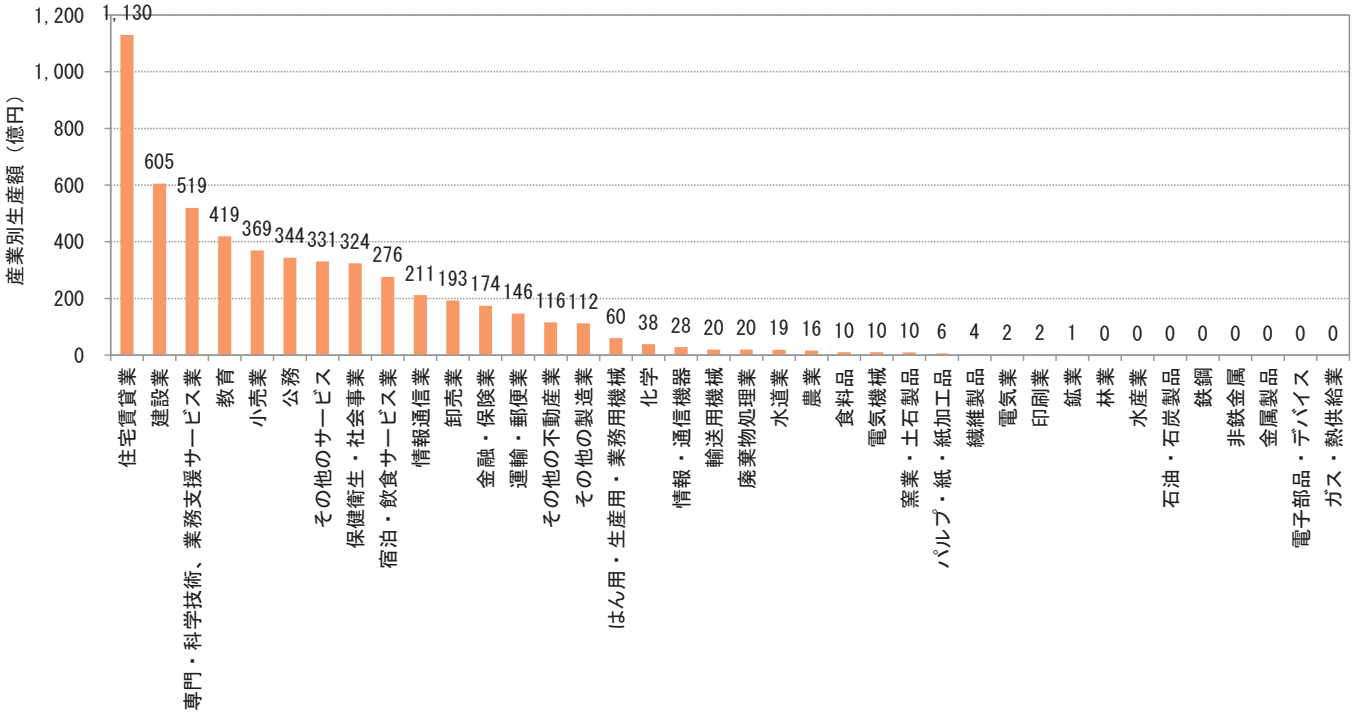
○環境省が提供する「地域経済循環分析」を参照し、主に第二次産業に着目し、市内産業の生産・雇用についてまとめました。

２．生産について

○産業別生産額（売上）は住宅賃貸業が最も多くなっています。第二次産業では建設業が多く、全体でも２番目です。

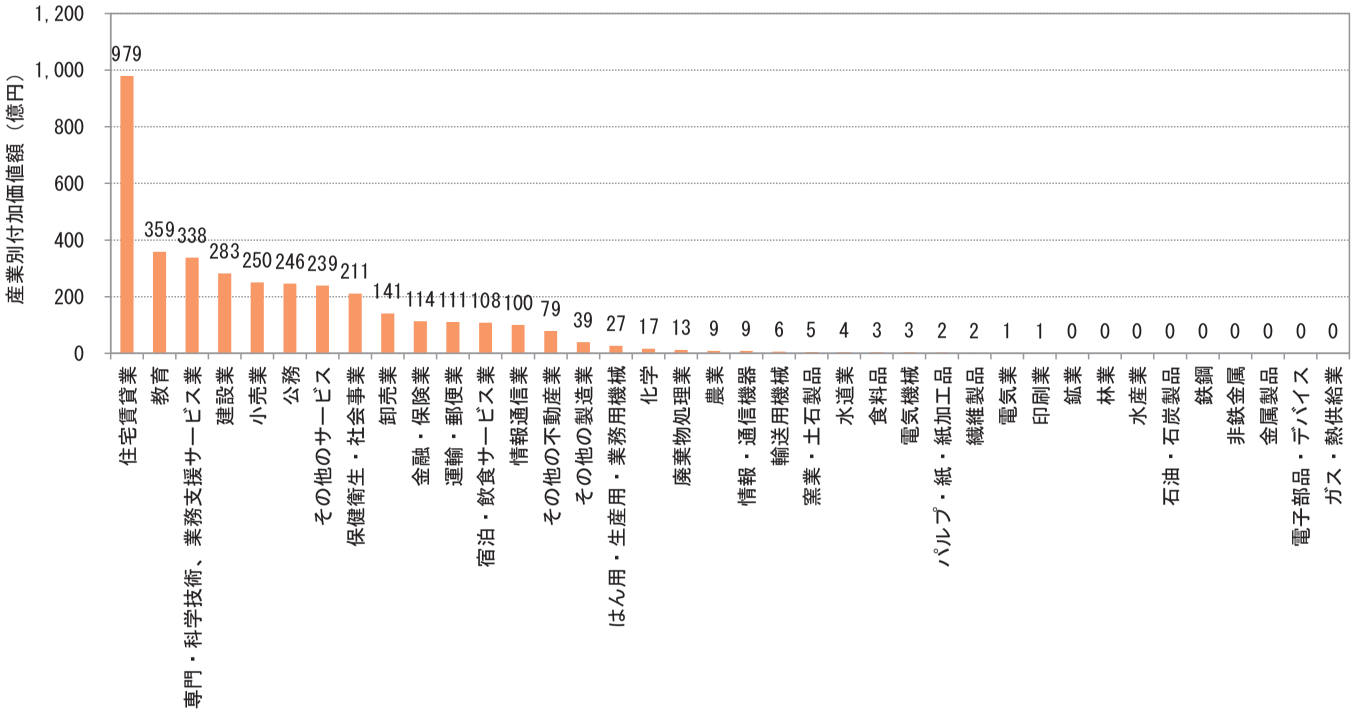
○付加価値額（粗利益）も住宅産業が最も多くなっています。第二次産業では建設業が多いですが、全体では４番目となります。

【産業別生産額】



出典：環境省「地域経済循環分析」（2015 年版）

【産業別付加価値額】

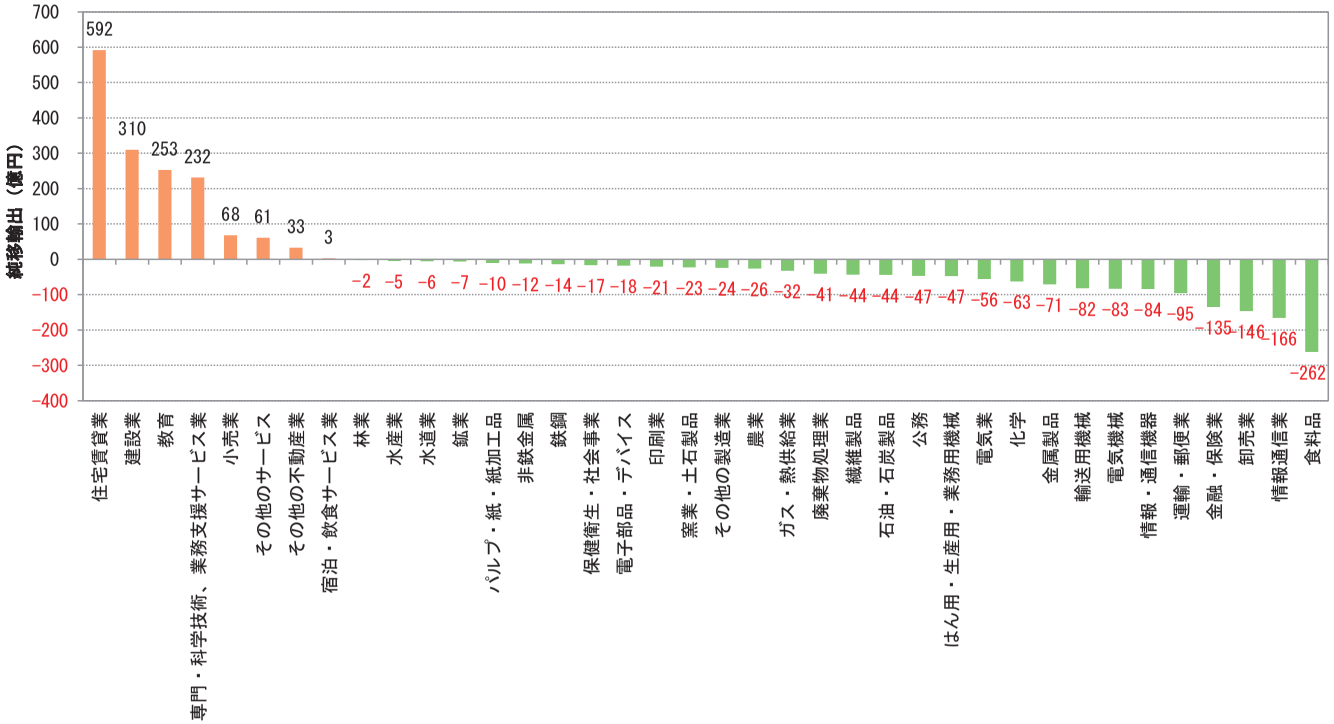


出典：環境省「地域経済循環分析」（2015 年版）

3．市外からの所得獲得について

○純移輸出額（市外からの支払―市外への支払い：市外から稼いでいる生産）をみると、第二次産業では建設業が地市外から所得が流入しているものの、その他の分野では市外に所得が流入している状況にあります。

【産業別純移輸出額】



出典：環境省「地域経済循環分析」（2015 年版）

４．市内産業の取引構造

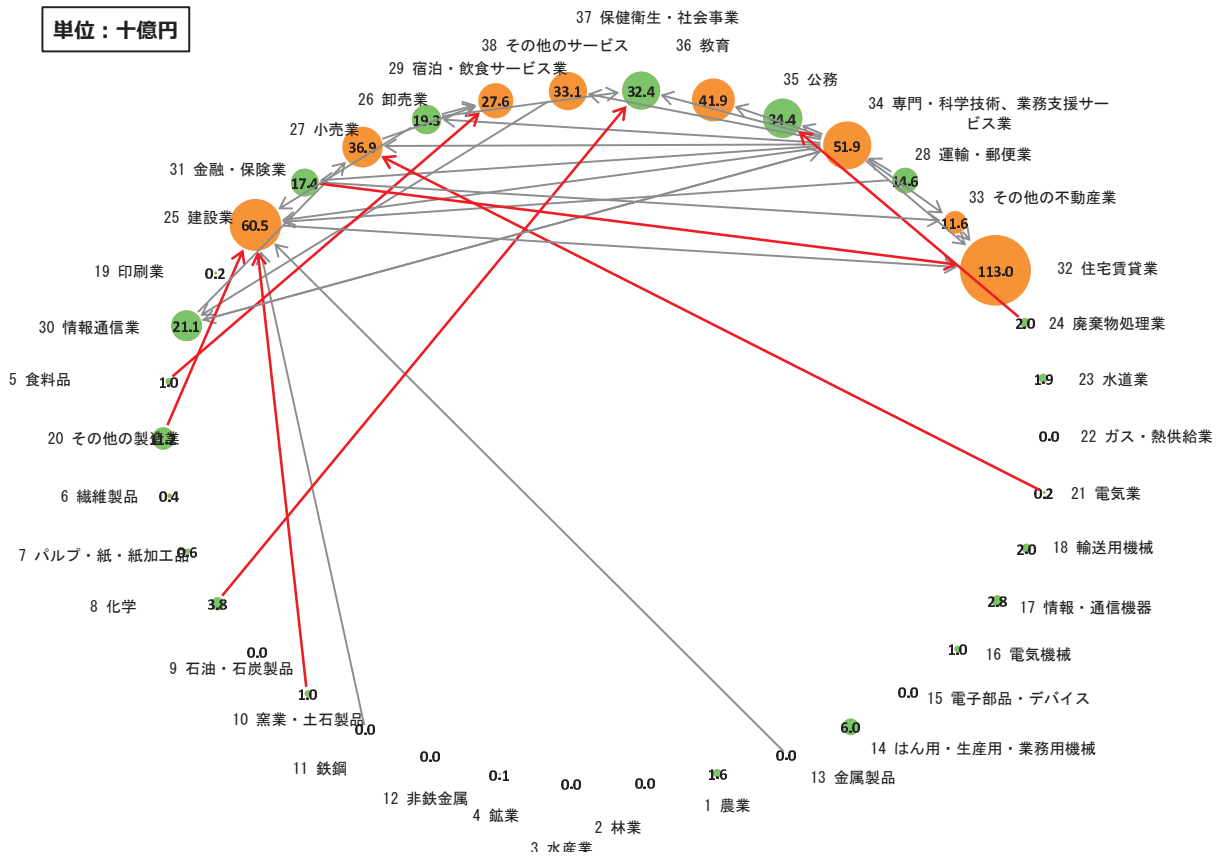
○下記の図は、環境省が提供する「地域経済循環分析」で提供されており、産業間の取引を可視化したものです。数値は産業別生産額になります。

○オレンジの円で示される産業は前述の純移輸出額がプラスの産業（市外から所得が流入している産業）で、緑の円で示される産業は純移輸出額がマイナスの産業（市外に所得が流入している産業）です。

○灰色の矢印は市内事業者の総生産（5,515 億円）のうち 0.2%以上を占める取引です。矢印の起点となる産業の生産額の 3 割以上を占める場合には赤色の矢印となります。つまり赤色の矢印は取引額の多いものとなります。

○上記を踏まえると、民間でいうと、金融・保険業と住宅賃貸業の取引、窯業・土石製品やその他の製造業と建設業、電気業と小売業の取引、化学と教育の取引が赤色の矢印となっており、取引額が多いものとなります。

【産業別純移輸出額】



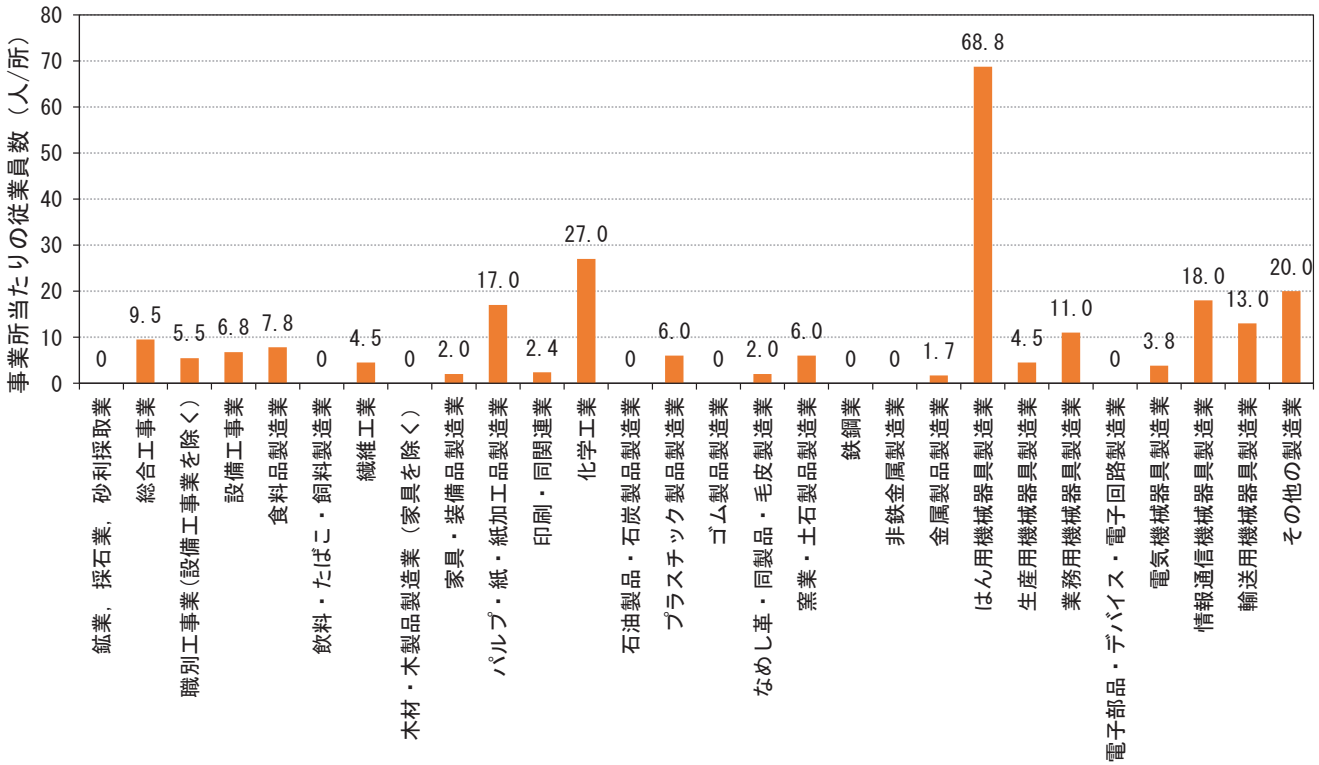
出典：環境省「地域経済循環分析」（2015 年版）

5．事業所数・雇用について

○経済センサスを用いて第二次産業の事業所当たりの従業員数でみると、はん用機械器具製造業が 68.8 人/所で最も多くなっています。

○建設業にあたる総合工事業、職別工事業、設備工事業は 10 人/所未満と比較的少なくなっています。

【産業別事業所当たりの従業員数】



出典：平成 28 年経済センサス活動調査